

めあて

文章を正しく読み取ろう

一 次の二つの投書Aと投書Bは「スポーツとどのように向き合えばよいか。」というテーマで書かれたものです。それぞれの投書を読んで、あとの各問いに答えましょう。

《投書A》六月十五日朝刊 会社員 河東 真治 34

昨日、テレビで高校野球の試合を見ていたら、投球数が二百球をこえたにもかかわらず、ピッチャーは交代しないで投げ続けていた。勝つことだけを考えて、体に負担をかけ続けると、かたやひじをこわしてしまふのではないだろうか。

体に無理な負担をかけてまでスポーツをすることはない、というのがわたしの意見だ。

理由は、スポーツを通して健康な体や心を育てるといふ、スポーツの目的に反するからだ。スポーツをして逆に体をこわしては、スポーツをする意味はない。一度体をこわすと、その後、スポーツを続けられなくなる。わたし自身、中学校時代にサッカーをしていたが、やり過ぎてひざをこわしてしまい、以後、部活動が続けられなくなった。

仲間と楽しみながら、適度にスポーツを行うことによって、健康な体と心を保つようにすることが大切だ。

《投書B》六月二十八日朝刊 無職 大木 洋平 67

六月十五日の朝刊にのっていた河東さんの投書を読みました。でも、わたしは河東さんの意見とはちがう考えをもっています。

わたしは、スポーツは勝利を求めて限界まで努力するところに価値があると考えています。

サッカーのフランス代表監督として、一九九八年のワールドカップでフランスを優勝に導いたエメ・ジャッケ氏は、「勝ったのは奇跡ではない。それだけのことをやったからです。」と語っています。きびしい練習に自分を追い込み、努力しているからこそ、勝つこともでき、人間的にも成長できるのです。

一流選手の行動や言葉を手本にし、多くのことを学んでいきたいものです。苦しさにたえ、努力することがあってこそ、人間は成長するのですから。

振り返り	②	① はじめ	<p>1 高橋さんたちは、二つの投書の意見を整理しながら理由付けの工夫について、たがいに発表しました。高橋さんたちの話し合いで、①には当てはまる言葉を投書Aの中から二十五字で抜き出し、はじめと終わりの5字をそれぞれ書きましょう。また、②、③に入る最も適した言葉を後ろのAからEの中から選び、それぞれ記号で書きましょう。</p> <p>高橋さん… 河東さんは、①という意見を述べています。 山下さん… 河東さんは、その理由づけとして、②ことで読み手を説得しているところがいいと思いました。 山田さん… 大木さんは、自分の意見に対する理由づけとして③ことで説得力があると思いました。</p> <p>A… 具体的なデータをを使う。 イ… 自分の経験を述べる ウ… 見たり聞いたりしたことを述べる エ… 有名な人の言葉を引用する</p>
	③	① 終わり	